

所属名	事務事業名	ページ番号
循環型社会推進課	可燃ごみ等収集運搬事業	2
循環型社会推進課	不燃ごみ収集運搬事業	3
循環型社会推進課	粗大ごみ収集運搬事業	4
循環型社会推進課	資源物収集委託事業	5
循環型社会推進課	清掃工場維持管理運営事業	6
循環型社会推進課	有害ごみ（蛍光管等）処理事業	7
循環型社会推進課	清掃工場二酸化炭素分離回収設備維持管理事業	8
循環型社会推進課	搬入ごみ予約システム運営経費	9
循環型社会推進課	プラスチックごみ分別リサイクル事業	10
循環型社会推進課	最終処分場維持管理事業	11
循環型社会推進課	有価物処理事業	12
循環型社会推進課	リサイクル工場維持管理運営事業	13
循環型社会推進課	廃食用油リサイクル事業	14
循環型社会推進課	一般廃棄物収集運搬処理事業（諸富町及び三瀬地区）	15
循環型社会推進課	一般廃棄物処理基本計画策定経費	16
循環型社会推進課	ごみの堆肥化等リサイクル促進事業	17
循環型社会推進課	ごみ減量啓発事業	18
循環型社会推進課	有料指定袋事業	19
循環型社会推進課	資源物集団回収奨励事業	20
循環型社会推進課	容器包装リサイクル法関連業務	21
循環型社会推進課	事業系ごみ減量・リユース推進事業	22
循環型社会推進課	不法投棄防止対策経費	23
循環型社会推進課	ごみステーション適正管理経費	24
循環型社会推進課	エコプラザ管理運営事業	25

令和7年度 事務事業進捗報告シート

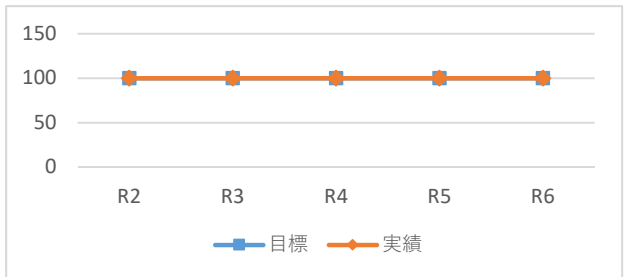
事務事業名	可燃ごみ等収集運搬事業	事業期間	昭和 46 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

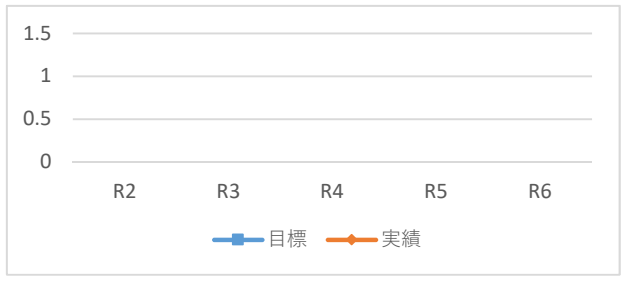
事業概要・目的	「旧佐賀市内の一部」及び「旧久保田町以外の支所管内」に設置されているごみステーションに排出される「可燃ごみ」について業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	「旧佐賀市内の一部」及び「旧久保田町以外の支所管内」の住民				
令和6年度 主な活動実績	旧佐賀市内の26のブロック及び旧久保田町以外の支所管内のごみステーションに排出される「可燃ごみ」について、民間業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	283,829	284,451	285,847	299,391	332,101
うち佐賀市の負担額	198,041	197,235	212,010	265,534	302,332

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
可燃ごみの適正収集率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100 100	100 100		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

↓

今後の改善策、対応策等

今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	不燃ごみ収集運搬事業	事業期間	昭和 43 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみステーションに排出される「不燃ごみ」について業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和6年度 主な活動実績	ごみステーションに排出される「不燃ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	40,146	39,341	41,799	42,508	47,767
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
不燃ごみの適正収集率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100 100	100 100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

↓

今後の改善策、対応策等

今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	粗大ごみ収集運搬事業	事業期間	平成 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	「粗大ごみ」を清掃工場へ直接搬入して処理することが困難な市民のため、「定期収集方式」又は「臨時収集方式」により、「粗大ごみ」について適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和6年度 主な活動実績	「定期収集方式」及び「臨時収集方式」によって、戸別に収集を行う。 「定期収集方式」では、毎月末までに、インターネット又は電話で申込み、オンライン決済（ネット申込みのみ）又は市内の金融機関でステッカーを購入することによって、翌月の指定日に収集する。 「臨時収集方式」では、市が委託する収集業者に利用者が直接、収集を申し込む。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	21,500	25,764	24,480	31,261	25,316
うち佐賀市の負担額	5,681	7,281	7,720	11,572	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
粗大ごみの適正収集率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100 100	100 100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

↓

今後の改善策、対応策等

今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。また利用者に対しては、ホームページ等を通して利用方法の周知を図る。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	資源物収集委託事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみステーションに排出される「資源ごみ」について、収集運搬業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和6年度 主な活動実績	ごみステーションに排出される「資源ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	99,942	105,942	106,705	108,125	132,567
うち佐賀市の負担額	99,942	105,942	106,705	108,124	132,567

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
資源ごみの適正収集率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100 100	100 100	100 100	100 100	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。

↓

今後の改善策、対応策等

今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	清掃工場維持管理運営事業	事業期間	平成 14 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場は、本市における可燃ごみの「適正な焼却」と「減容化」を行う主体となる施設である。その運転管理は民間事業者へ委託し、「効果的」かつ「効率的」に業務を実施する。 適正に「運転管理」と「施設の維持・管理」を行うことにより、焼却時に発生する有害物質を規制値内に抑えるとともに、必要な施設機能を維持する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市清掃工場運転業務委託 ・佐賀市清掃工場定期点検整備 ・各種設備の法定点検の受審 ・各種環境基準への排出抑制の証明となる計量測定の業務委託 ・焼却灰セメント資源化処理業務委託 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,027,331	1,061,879	1,029,425	1,008,423	1,046,368
うち佐賀市の負担額	672,042	631,816	578,550	628,300	689,312

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
焼却量					t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
70,113	73,183 68,549	73,188 68,563	73,193 66,371	73,198 64,331	

Year	Target (t)	Actual (t)
R2	73,193	70,113
R3	73,193	68,549
R4	73,193	68,563
R5	73,193	66,371
R6	73,193	64,331

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

Year	Target	Actual
R2	1.0	1.0
R3	1.0	1.0
R4	1.0	1.0
R5	1.0	1.0
R6	1.0	1.0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	市内で発生したごみを環境値を超えることなく、安全に処理できている。

↓

今後の改善策、対応策等

施設の老朽化が進んでいることが維持管理上の懸念であるが、プラントメーカーとの協議と情報共有により適正な維持管理を継続する。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有害ごみ（蛍光管等）処理事業	事業期間	昭和 59 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3 R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市内で収集された水銀含有の使用済み蛍光管や、リチウムイオン電池等の充電式電池を含む電池類について、適切かつ一体的に処理するシステムを構築している民間事業者に委託することで適正に処理する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	民間事業者へ委託し、廃蛍光管や電池類を適正に処理する。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,547	2,871	2,148	2,441	2,333
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
蛍光管の処理量						kg
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
10,390	10,380 7,990	10,370 6,110	10,360 6,090	10,350 5,890		

成果指標②						単位
乾電池の処理量						kg
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
0	12,760 12,760	12,760 9,400	12,760 11,390	12,760 10,480		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	収集された使用済み蛍光管及び電池類については、適正に処理を行っている。

↓

今後の改善策、対応策等

水銀含有の蛍光管については、LEDの普及に伴い減少しているため、次期計画時には、目標設定の見直しが必要と考えている。リチウムイオン電池等を含む電池類については、燃えないごみに混入して排出されているものも見受けられるため、今後とも、電池類の分別回収について広報啓発に努めていく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	清掃工場二酸化炭素分離回収設備維持管理事業	事業期間	平成 28 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	温暖化防止対策の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場において可燃ごみの焼却時に排出されるガスから二酸化炭素を抽出し、需要家（3者）へ供給を行うことで、本市の増収及び二酸化炭素の排出量削減を図る。 二酸化炭素の抽出及び供給を安定して行うため、設備の維持管理と所要の薬剤購入等を行う。				
事業の対象者	二酸化炭素需要家				
令和6年度 主な活動実績	清掃工場周辺の需要家（ゆめファーム全農SAGA、（株）アルビータ、花王株式会社、（株）本庄ファーム）へ二酸化炭素の供給を行った。 供給量：77,447Nm ³ =152.128t				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	25,297	22,722	20,192	11,110	23,126
うち佐賀市の負担額	25,297	17,377	15,636	4,160	17,355

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
二酸化炭素供給量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
222	222 132	222 119	222 178	222 152		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	供給量の実績が目標を下回ったが需要先が増えた。安定した供給のためには、整備を行い維持管理していく必要がある。

↓

今後の改善策、対応策等

故障頻度が多くなってきているので、2系統化整備を進め、安定的な稼働に努める。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	搬入ごみ予約システム運営経費	事業期間	令和 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場及び佐賀市清掃工場南部中継所への、土曜日及び祝日のごみの直接搬入を事前予約制とすることにより、混雑緩和、搬入件数の平準化、場内の安全確保を目的とする。また、令和6年度から粗大ごみ定期収集の予約情報をシステムで一元管理することにより、利用者の利便性の向上、収集業務の効率化、受付事務の省力化を図ることを目的とする。				
事業の対象者	市民				
令和6年度主な活動実績	令和3年6月から直接搬入の事前予約制を開始したことで、長蛇の搬入待ちの車列は解消され、待ち時間の短縮につながった。令和4年度以降は年末3営業日も予約制としたことで、大きな混乱なく搬入対応できている。令和5年度は、粗大ごみ定期収集予約機能を追加する改修を行った。令和6年3月からインターネット受付とオンライン決済を導入し、7月には電話予約制も開始した。システムによる一元管理を行うことで、事務の効率化と利便性の向上を実現した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	4,444	8,882	9,439	8,689	10,487
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
土曜日搬入件数（一日平均）						件
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
151.0	95.0	95.0	95.0	95.0	58.0	
	61.4	57.0	60.3			

Year	Target	Actual
R2	151.0	151.0
R3	95.0	61.4
R4	95.0	57.0
R5	95.0	60.3
R6	95.0	58.0

成果指標②						単位
粗大ごみ定期収集インターネット受付率（R6.6から実施）						%
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
-	-	-	-	100	55.4	

Year	Target	Actual
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	100	55.4

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入車両で混雑することがなくなり、待ち時間の解消と安全確保が図られた。 ・引っ越しなどで複数回の搬入が必要な場合も、計画的な受入が可能となり、利便性が向上している。 ・粗大ごみのインターネット受付やオンライン決済が利用可能となり、事務作業の効率化と住民の利便性が向上している。

↓

今後の改善策、対応策等

・インターネット受付について、引き続き周知を行っていく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	プラスチックごみ分別リサイクル事業	事業期間	令和 6 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	世界的な課題となっている海洋プラスチック問題や気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化に対応するため、令和4年4月にプラスチック資源循環促進法が施行された。当該法の趣旨に基づき、プラごみの分別・リサイクルの実施について検討を進め、資源循環型社会の実現に向けて取り組みを促進する。 プラスチックごみをリサイクルすることで、焼却処理量の削減とプラスチックの排出抑制に繋げる。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館4か所（循誘、神野、巨勢、本庄）及びエコプラザにおいて拠点回収のモデル実証を実施 回収量1,870kg、再資源化率90%、異物率10%（再資源化できない可燃プラスチック含む） 汚れがついたものや大きすぎるものが混入していたが、概ね目標としていた「きれいな」プラスチックを回収できた ・サガテレビによるプラスチックごみ分別に関する周知・広報の実施 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額					993
うち佐賀市の負担額					993

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
プラスチック回収量						トン
R2 実績	R3 目標実績	R4 目標実績	R5 目標実績	R6 目標実績		
				12		
				1.87		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標実績	R4 目標実績	R5 目標実績	R6 目標実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	「拠点まで遠い」「回収期間が短い」という市民の声もあったが、拠点方式での実施が適切か継続して検討することが必要である。また、モデル実証であったため地域への広報周知をチラシの班回覧に留めたことが、周知不足の要因の一つであったと考えられる。

今後の改善策、対応策等

回収場所を市立公民館として事業を進める中で「危険なものが入ったら」、「本来業務以外の対応が増えすぎる」という公民館からの不安な声等に対し、事業実施者としてパトロール体制の強化または収集体制の強化を図る必要がある。また、公民館管理人やまちづくり推進協議会等、見守り体制への協力が望めるか検討したい。広報については引き続き紙媒体のみならず動画を活用した対応を行う必要がある。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	最終処分場維持管理事業	事業期間	昭和 56 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市一般廃棄物最終処分場は、本市における「一般廃棄物」の最終的な処分を行う主体となる施設である。その運転管理は、株式会社佐賀資源化センター（第3セクター企業）に委託し、効果的かつ効率的に業務を実施する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	不燃残さ等を適正に最終処分（埋立て）するとともに、「浸出水処理施設」をはじめとした各種施設や設備類等について適切に維持管理を行った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	36,383	31,864	32,697	34,416	33,167
うち佐賀市の負担額	36,383	31,864	32,697	34,416	33,167

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
最終処分量（埋立量）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,977	3,032 2,805	3,014 2,679	3,005 2,441	2,980 2,330		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	人口減少に伴うごみ排出量の減少やリサイクル率の増加により、埋め立て量は減少している。

↓

今後の改善策、対応策等

今後も、「浸出水処理施設」をはじめとした各種施設や設備類について適切に維持管理を行い、安定的に事業を継続するとともに、埋立量の縮減に繋がる事業や取り組みについて検討を行う。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有価物処理事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市一般廃棄物最終処分場に搬入された資源物（ビン、缶類）についての「選別業務」及び選別した有価物の「売却業務」を、株式会社佐賀資源化センター（第3セクター企業）に委託して実施する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	有価物（ビン、缶類）の選別を適正に行うことにより、リサイクルの促進と埋立量の縮減を図った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	75,900	71,154	60,413	60,251	61,515
うち佐賀市の負担額	75,900	71,154	60,413	60,251	61,515

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
選別した有価物の量（ビン・缶）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,061	2,062 1,953	2,063 1,937	2,064 1,798	2,065 1,769		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	最終処分場に搬入された資源物（ビン、缶類）の搬入量の減少により、有価物の量も減少している。搬入された資源物については、適切に選別し搬出している。

↓

今後の改善策、対応策等

今後とも、有価物（ビン、缶類）の選別を適正に行うことにより、リサイクルの促進と埋立量の縮減につなげる。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	リサイクル工場維持管理運営事業	事業期間	平成 16 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	リサイクル工場は、本市において発生した「ペットボトル」、「不燃ごみ」、「紙・布類」、「粗大ごみ」等の選別業務を実施する上で主体となる施設である。その運転管理は民間事業者にて委託し、効果的かつ効率的に業務を実施する。また、施設の設備について適切に整備し、安全な操業を行う。				
事業の対象者	市民				
令和6年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ○リサイクル工場運転業務委託 リサイクル工場に搬入される不燃ごみ等を選別し、有価物を搬出した。 ○リサイクル工場定期点検整備 リサイクル工場の運営に必要な設備の整備を行い、適正な状態を保った。 				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	95,704	112,679	121,068	127,955	139,935
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源物搬出量						t
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
4,554	4,500	4,501	4,502	4,503	4,692	4,295
					4,052	3,980

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	リサイクル工場への搬入量の減少により、有価物の量も減少している。搬入された不燃ごみ等については、適切に選別し搬出している。

今後の改善策、対応策等

施設内の設備について適正な維持管理を継続しながら、委託している民間事業者との連携を深めることで、より効率的なリサイクル体制の構築を目指す。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	廃食用油リサイクル事業	事業期間	平成 16 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市内から排出される廃食用油を、各種公共施設やスーパー等に設置した回収ボックス及び市内事業所から定期的に回収し、清掃工場敷地内の廃食用油再生プラントで高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）に精製することで、循環型社会及び脱炭素社会へ貢献する。なお、精製した燃料は市営バス及びごみ収集車等の燃料として利用することで、地域資源循環による再生可能エネルギーの利活用を推進する。				
事業の対象者	廃食用油を排出する市民及び市内事業所				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 回収ボックス及び市内事業所からの廃食用油回収（環境保全課） 回収した廃食用油の異物除去 民間委託による廃食用油再生（HiBD精製） 精製プラントの維持管理 廃食用油の保管管理 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	7,815	8,673	14,204	15,423	19,739
うち佐賀市の負担額	6,467	6,901	11,166	14,592	19,739

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）精製量						ℓ
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		
2,805	26,000	30,000	40,000	40,000		
	9,796	27,979	38,050	38,466		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	令和6年度は、適宜運転方法の改善等に努めたことで品質が安定し、HiBDの精製量が増加した。精製したHiBDはごみ収集車及び市営バスの燃料等として利用していることから、地下資源の保全、地域の資源循環に貢献した。

今後の改善策、対応策等

精製施設の24時間運転が実現すれば精製量の更なる増加が図れるが、長期連続運転時の安定稼働確立、夜間の運転管理体制整備（無人化プログラムの構築）、製品タンク容量等の法的課題などをクリアする必要がある。また、更なる収率向上を目指した精製技術の研究も必要である。今後とも目標達成に向け各種課題の解決、関係機関との調整を進める。

令和7年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	一般廃棄物収集運搬処理事業（諸富町及び三瀬地区）	事業期間	昭和 51 ～ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	<p>諸富町及び三瀬地区から排出される一般廃棄物は、「脊振共同塵芥処理組合（一部事務組合）」において処理してきたため、その処理にかかる負担金を支払う。</p> <p>令和5年度末で脊振広域クリーンセンターは稼働終了し、令和6年度から諸富町及び三瀬地区のごみ処理も佐賀市清掃工場で行っている。</p> <p>なお、同組合は令和6年度以降も施設の管理運営及び廃止に関する事務を行っており、令和9年度に解散予定</p>				
事業の対象者	諸富町及び三瀬地区の住民				
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、脊振共同塵芥処理組合同規約				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	140,911	141,596	139,766	136,402	43,525
うち佐賀市の負担額	135,911	136,596	134,766	131,402	43,525

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
一般廃棄物の処理量（諸富町及び三瀬地区）					t
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
2,452	2,377	2,289	2,248		

活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>令和5年度末で脊振広域クリーンセンターが稼働終了し、ごみの収集及び処理を行わなくなったため、令和6年度以降は事業費総額（負担金支払）が減少した。ただし、施設の解体に向けて負担金の支払は令和9年度まで続き、解体費用の負担が発生する。</p>
--

令和7年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	一般廃棄物処理基本計画策定経費	事業期間	令和 6 ~ 令和 6 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条第1項の規定において、市町村は一般廃棄物の処理に関する計画（一般廃棄物処理計画）を策定することが義務付けられている。前計画が令和6年度に目標の最終年度を迎えたことから、これまでに取り組んできた施策等を踏まえ、新たな計画の策定を行った。 計画期間：令和7年度から令和16年度				
事業の対象者	市民				
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	-	-	-	-	2,948
うち佐賀市の負担額	-	-	-	-	2,948

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
検討部会の開催回数					回
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
				3	

活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>本計画は、「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理基本計画」で構成している。本計画の目標達成に向け、今後10年間に様々な施策に取り組んでいく。</p> <p>本計画期間は、10年間であるが中間年にあたる令和11年度に見直しを実施予定である。</p>

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみの堆肥化等リサイクル促進事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	家庭から排出される燃えるごみの約3割を占める生ごみを中心に、3Rの中で最も優先順位の高いリデュースに特化した事業を展開することで、バイオマス資源である生ごみ等の有効活用を図り、地域資源循環型社会及び脱炭素社会の構築に寄与する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用生ごみ処理容器等の購入費補助 133件 生ごみ堆肥化や減量方法に精通した団体に委託し、生ごみ減量のサポートや体験型講座を実施 講座実施 56回、サポート 283回 佐賀市清掃工場や佐賀市清掃工場南部中継所に持ち込まれた剪定枝の一部をチップ化し、マルチング材や堆肥の原料として無料で配布 3.24 t 				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	8,448	9,004	8,941	9,667	9,624
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
家庭系生ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
16,132	15,308 15,688	15,073 15,483	14,884 14,762	14,621 12,706		

成果指標②						単位
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量						g
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
646	615 627	611 616	608 590	605 574		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	昨年度と比べて、家庭系ごみが大幅に減少した。明確な要因は不明だが、単身世帯の増加に伴い、家庭で調理をしない世帯の増加による調理くずの減少など、ライフスタイルの変化によるごみの減量が考えられる。

↓

今後の改善策、対応策等

市民一人ひとりがごみ減量の取り組みを日頃から意識して実践してもらえるよう、食品ロスをはじめとするごみの分別やリサイクルについての広報・周知を徹底する。また、家庭用生ごみ処理容器を利用する市民（特に新規）に対しては、利用を継続できるよう、委託団体によるサポートを随時行う。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみ減量啓発事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみの分別や減量について出前講座や広報媒体を通じて市民に周知することで、市民の意識高揚を図る。ごみカレンダー・分別表を配布し、ごみの適正排出を促す。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発 37件（市報28件、生活情報誌2件、新聞記事0件、ラジオ0件、TV2件、SNS・その他5件） ・ごみカレンダー・分別表配布 市内約10万世帯 ・職員出前講座 14件 ・家庭で余った食品を寄付する「フードドライブ」をエコプラザ等で実施した。 				
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	6,244	3,526	3,647	4,298	3,800
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
家庭系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
54,618	52,090 52,760	51,728 51,624	51,511 49,290	51,034 47,648		

成果指標②						単位
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量						g
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
646	615 627	611 616	608 590	605 574		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	昨年度と比較して、家庭系ごみの減量ができ、成果指標①、②を達成することができた。単身世帯の増加に伴い、調理をしない世帯の増加による調理くずの減少や、ポイント制の資源物回収といった民間リサイクルの浸透による紙ごみの減少など、ライフスタイルの変化によるごみの減量が考えられる。

今後の改善策、対応策等

様々な広報媒体を活用し、家庭で出来るごみ減量方法やリユースについて情報提供するとともに、ごみ分別やリサイクルについての周知広報を徹底する。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有料指定袋事業	事業期間	平成 8 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみを排出する際に利用する指定袋を有料にすることで、ごみの排出量に応じた費用負担となることから、ごみの減量やリサイクルの推進につなげる。 ごみ処理施設の統廃合にあわせて指定袋の仕様も統合しており、令和6年度から佐賀市全域で指定袋を統一した。(4分別、サイズ違いで9種類)				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	○指定ごみ袋の製造枚数：14,156,000枚 ○指定袋取扱店数：368店（支店、自治会等を含む）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	184,831	186,424	187,993	227,034	210,491
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源化率						%
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
18.6	19.8	20.0	20.3	20.5	17.8	20.9
成果指標②						単位
家庭系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
54,618	52,090	51,728	51,511	51,034	52,760	47,648

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	ごみ減量及び資源化率向上ともに概ね目標を達成している。今後も、市民に対してごみの減量やリサイクル推進の取り組みを続けていく。

↓

今後の改善策、対応策等

将来的な指定ごみ袋のあり方について、ごみ処理費用に応じた適正な価格設定となるよう検討を行う。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	資源物集団回収奨励事業	事業期間	平成 8 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	自主的に資源物回収運動を実施している団体に対して奨励金を交付することにより、佐賀市のごみの減量および資源の有効利用を図る。				
事業の対象者	佐賀市内の営利を目的としない住民団体（例：自治会、子ども会、老人クラブ等）				
令和6年度 主な活動実績	登録申請団体 180団体 奨励金交付団体（集団回収実施団体） 175団体 回収資源物量 606,253kg				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,565	2,395	2,166	2,019	1,819
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源物回収量						t
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		
855	900	900	900	900		
	798	722	673	606		

成果指標②						単位
回収実施団体数						団体
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		
188	190	190	190	190		
	188	183	181	175		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	近年のペーパーレス化による新聞や雑誌などの回収量減に加え、役員の担い手不足等の影響もあり回収ができなかった団体があるものの、活動は順調になされている。

↓

今後の改善策、対応策等

近年の資源物回収量の減少傾向は、ペーパーレス化による新聞や雑誌などの消費量減が大きく影響していると思われる。こうした背景もあり、回収量の増加は困難と思われるため、今後目標設定等の見直し検討が必要と思われる。依然として燃えるごみに混入する紙類もまだ多いと思われるため、更なる分別の周知に努めていきたい。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	容器包装リサイクル法関連業務	事業期間	平成 9 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民から分別収集した容器包装廃棄物のうち、ペットボトル、ガラスびんを国の指定法人などの再商品化事業者へ引渡し、再商品化を促進することで、一般廃棄物の減量及び廃棄物の適正な処理、資源の有効利用を図る。				
事業の対象者	市民				
令和6年度主な活動実績	○国指定法人の再商品化事業者への引渡実績 ・無色びん：474.18 t、茶びん：472.40 t、その他びん：226.72 t ○独自ルートの再商品化事業者への引渡実績 ・ペットボトル：503.94 t ※R5より高度なリサイクルが可能な技術を有する再商品化ルートを新たに構築した。				
事業総額					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,062	986	1,129	946	1,540
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
ペットボトル引渡量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
493	501.1 490.6	514.1 506.5	527.5 494.11	541.2 503.9		

成果指標②						単位
びん類引渡量（無色びん＋茶びん＋その他びん）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,341	1,298.7 1,267.1	1,272.1 1,279.6	1,246.0 1,181.3	1,220.6 1,173.3		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	近年PET容器の出荷本数は増大傾向にあるが、容器の軽量化等により引渡量は横ばい傾向である。また、びん類は、飲料容器等のペットボトル化の傾向もあり、引渡方も減少傾向である。

今後の改善策、対応策等

容器包装リサイクルの推進のためには、異物除去を徹底する必要があるため、市民への分別ルールの周知広報に継続して努めるとともに、マイボトルの推進など排出量の削減にも努める必要がある。また、プラスチック資源循環促進法の施行により、容器包装廃棄物の量にも影響が生じると考えられる。社会情勢の変化等も加味しながら、適切な分別収集計画の策定に努め、容器包装廃棄物の排出量削減とリサイクル推進を図っていく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	事業系ごみ減量・リユース推進事業	事業期間	平成 11 ~ 令和 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	事業系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	事業系ごみ排出者責任の原則を市内の各事業者者に理解してもらうことで、ごみの排出抑制とリサイクルに対する意識の向上を図り、事業系ごみの減量化及び資源化を図る。年間36トン以上の一般廃棄物を排出する「多量排出事業者」には、廃棄物減量推進責任者の選任と廃棄物減量計画書の提出を義務化すると共に、研修会や訪問指導を行うことで、事業系ごみの排出抑制とリサイクル意識の向上を図る。				
事業の対象者	市内事業者				
令和6年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象の多量排出事業者（前年度の排出実績を基に、当該年度に調査対象者となった）数 67件 ・事業所訪問数 7件 ・食品ロス削減マッチングサービス「SAGAタベスケ」の実施（R7年3月末現在）登録店舗数26件、登録者数2,140人 ・フードバンクさがと連携し、家庭で余った食品を寄付する「フードドライブ」等を実施。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	88	90	614	626	568
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
事業系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
29,245	30,163	29,452	28,838	28,088	27,583	
	28,226	29,003	28,973			

Year	Target (t)	Actual (t)
R2	-	29,245
R3	30,163	28,226
R4	29,452	29,003
R5	28,838	28,973
R6	28,088	27,583

成果指標②						単位
減量計画実践等により排出量を減量した事業者数						事業所
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
38	40	40	40	40	40	
	49	28	43	38		

Year	Target	Actual
R2	40	38
R3	40	49
R4	40	28
R5	40	43
R6	40	38

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	事業系ごみ排出量については減少しているものの、多量排出者の目標達成数は減少しており、新型コロナの5類移行以降の社会活動は緩やかな回復傾向で推移しているため、今後とも事業所への周知広報に努め、ごみ減量を啓発していきたい。

今後の改善策、対応策等

前年度より事業系ごみ排出量は減少している。令和5年1月より、期限の近い商品在庫や売れ残りそうな食品を出品できる「食品ロス削減マッチングサービス」を開始した。市内排出事業者に対するPRを強化するとともに、分別指導の徹底やリサイクル方法等の情報提供にも努めていく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	不法投棄防止対策経費	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	廃棄物の不法投棄は、環境を汚染したり、景観を損なうなど生活環境を悪化させるため、ごみステーション等に不法投棄された廃棄物を処理業者に委託して処分する。また、道路等で死んでいる小動物の回収を行い、環境の保全を図る。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄された農薬、廃プラスチック、冷凍庫等を処理業者に委託して処分した。 ・道路等の小動物の死がい回収した。（土日は業者に委託） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,163	1,274	1,383	1,818	1,944
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
不法投棄物や小動物の適正収集率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100 100	100 100		

Line graph showing the target (blue line with square markers) and actual performance (orange line with diamond markers) for the collection rate of illegal waste and small animals. Both target and actual performance are consistently at 100% from R2 to R6.

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

Line graph showing the target (blue line with square markers) and actual performance (orange line with diamond markers) for Indicator 2. Both target and actual performance are consistently at 0 from R2 to R6.

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	不法投棄されたものや小動物について、適正に回収、処分がなされている。

↓

今後の改善策、対応策等

不法投棄されたものや小動物について、適正に回収、処分がなされている。これからも適正回収・処分にむけて、委託業者へ指導していく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみステーション適正管理経費	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	各家庭からごみステーションに出された再生資源物について、市または市の委託を受けて収集運搬を行う業者以外は収集運搬してはならないが、換金目的で持ち去りを行う者がいる。市民等からの情報提供をもとに、資源物持ち去り防止のパトロール、現地調査を実施する。				
事業の対象者	市内住民				
令和6年度主な活動実績	・市民等からの情報提供をもとに、資源物持ち去り防止のパトロール、現地調査を実施した。				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,829	2,955	3,022	2,685	280
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
再生資源物の持ち去り件数						件
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
2	0	0	0	0	0	
	5	4	3	3	3	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	通報を受けてからの現場調査や資源物持ち去り禁止の看板等で啓発を行っているが、ごみステーションからの持ち去りは続いている。資源物の中でも古紙類のみならず、缶やペットボトルが抜き去られていることもある。

↓

今後の改善策、対応策等

適正処理されることを期待して排出された資源物の持ち去り行為は、ごみの分別ルールを守っている市民の環境に配慮したりサイクル意識を著しく低下させることも懸念される。資源物持ち去りについて、今後もパトロールや自治会と協力して、持ち去り者「0」を目指す。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	エコプラザ管理運営事業	事業期間	平成 15 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	江島 英文
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市の環境学習の拠点施設であるエコプラザにおいて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、また、施設見学案内、再生品の販売などを実施する。それにより廃棄物の発生抑制や再利用、廃棄物の適切な分別などに関する市民の意識を向上させ、豊かな自然を守るとともに、ものを大切に、環境に配慮した生活スタイルを身につけさせる。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	3Rを始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、施設見学案内、再生品の販売などを行った。 ・施設見学・視察：223団体（7,169人）、会議室利用：235団体（6,934人） ・環境啓発に関する講座：92回（参加者478人） ・環境に関するイベント（エコマーケット等）：23回（参加者3,809人）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	19,574	19,768	23,947	22,048	21,281
うち佐賀市の負担額	0	0	0	0	0

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
総来館者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
27,883	30,000 30,375	32,500 31,846	35,000 36,909	37,000 36,318		

成果指標②						単位
各種講座・イベント参加者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,808	4,000 2,411	5,000 3,100	6,000 4,021	6,500 4,287		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	総来館者数は、国スポ・全障スポの期間中に視察の受け入れを制限したことや、エコプラザの改修期間中に見学の受け入れを制限したことでR5年度と比較すると減少した。イベントは、エコマーケットの他に子ども夏祭りや映画上映会などを実施し、参加者を多く募ることができた。講座は、R5年度と比較すると参加人数が減少しているため、SNSを活用した広報をしていきたい。

↓

今後の改善策、対応策等

今後もエコプラザが目指す「集う」「学ぶ」「結ぶ」のコンセプトのもと、気軽に来館できるイベント等の実施や、家庭での実践行動に繋がるような各種講座を開催するとともに、エコプラザ利用者や利用団体等を相互に繋げることで、地域課題や社会課題の解決に繋がるように努める。また、動画の配信やSNSの活用を積極的に行うことで、若年層に向けた情報発信にも努めていく。